

農作業をしやすい環境づくりアンケート調査結果について

2024（令和6）年2月
川西地域農業広域協定

I. 調査概要

1. 調査目的

全国的にそして相楽郡川西土地改良区の地区内において、農業者の高齢化や担い手の減少など営農の継続が困難となる現状があります。そこで、地域で守っている水路・農道・ため池などの農業関連施設を、5年後、10年後にわたって引き継ぎ、ひいては将来的な農業の維持・充実を図っていくため、僧坊・舟・里・谷・中・南・植田・菅井の8つの集落と相楽郡川西土地改良区は、多面的機能支払交付金事業の広域活動組織「川西地域農業広域協定」を設立し令和4年度から5年間の予定で活動しています。この多面的機能支払交付金事業を活用し農作業をしやすい環境を整えるため、みなさんの農業の状況や意向についてアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象

8集落の活動組織の構成員（ただし植田区については農事組合員）のいる世帯で主として農作業を担われている方

対象件数 316件

僧坊実行組合49件、舟実行組合17件、里実行組合48件、谷区実行組合39件、中区実行組合35件、南区実行組合35件
植田農事組合61件、菅井農事組合 32件

3. 調査方法

運営委員（15人）を通じて、各実行組合等の構成員に調査票を配布及び返信用封筒により配布回収を行いました。

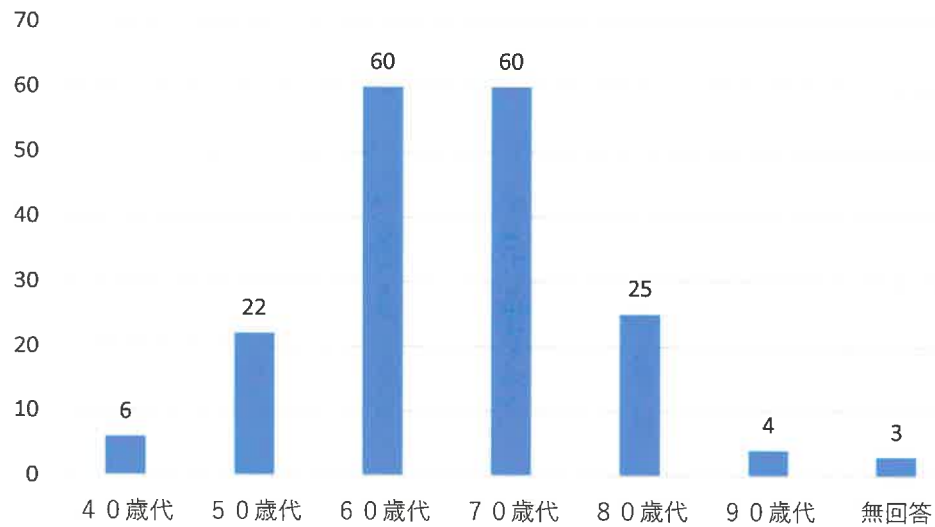
4. 調査期間

令和5年9月から11月20日まで

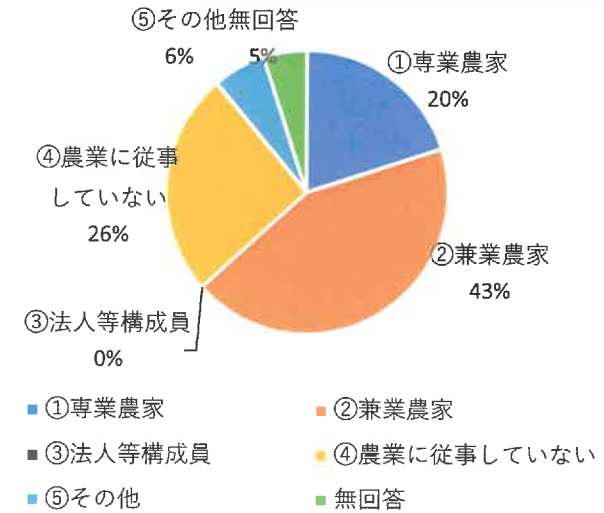
II. 回収結果

◎調査対象件数（広域活動組織構成員）	316
◎回収数	180
◎回収率（パーセント）	57.0
◎回答者について	

1. 農業経営主（世帯主、主耕作者）の年代



2. 経営形態



○地区内159人、地区外3人、無回答18人

○平均年齢 69.5 才

○農業従事者（平均）家族 1.6 人

○耕作面積（平均） 所有農地 4.3 反
他人農地 3.1 反

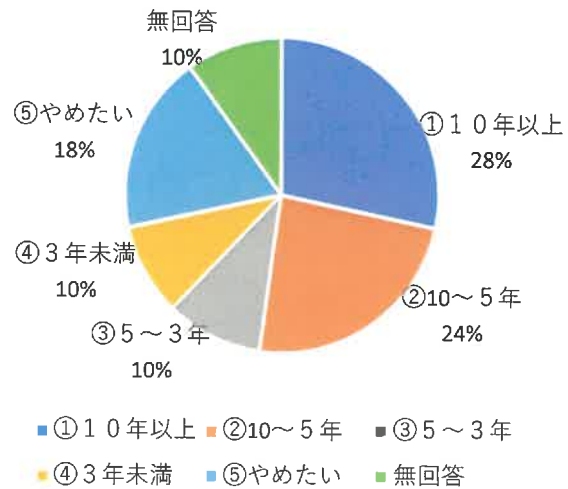
家族以外の雇用者 1.9 人

（内他人への貸農地 3.1 反）

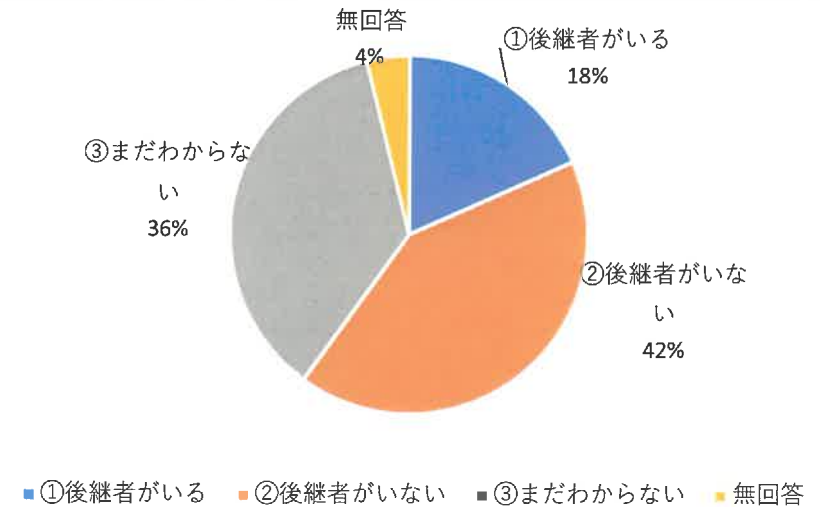
III. 主な集計結果

1. あなたの家の農業について

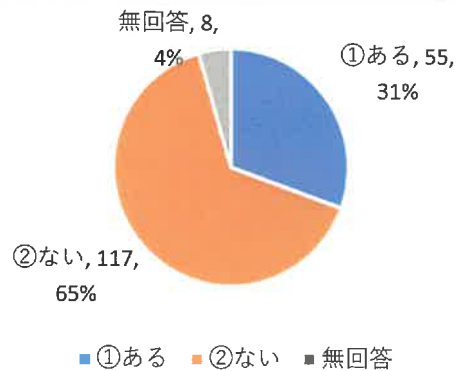
(1) 10年後の経営状況



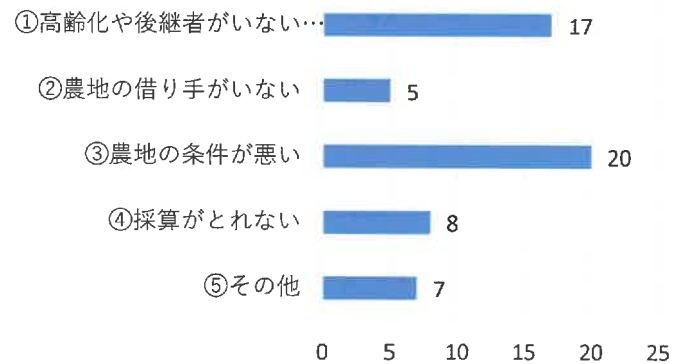
(2) 後継者



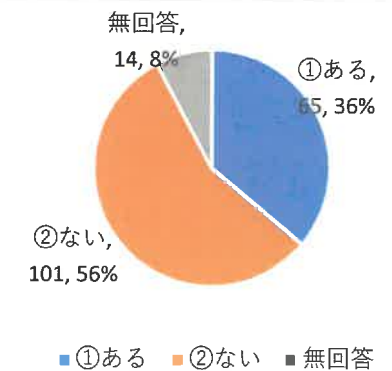
(3) 休耕農地



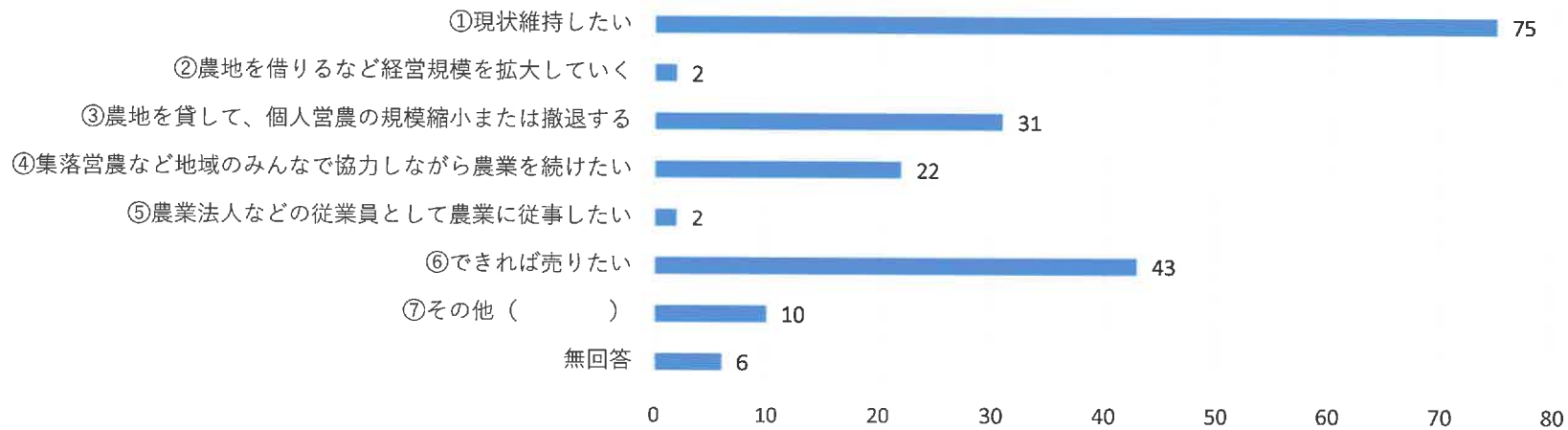
(3) - 1 休耕理由



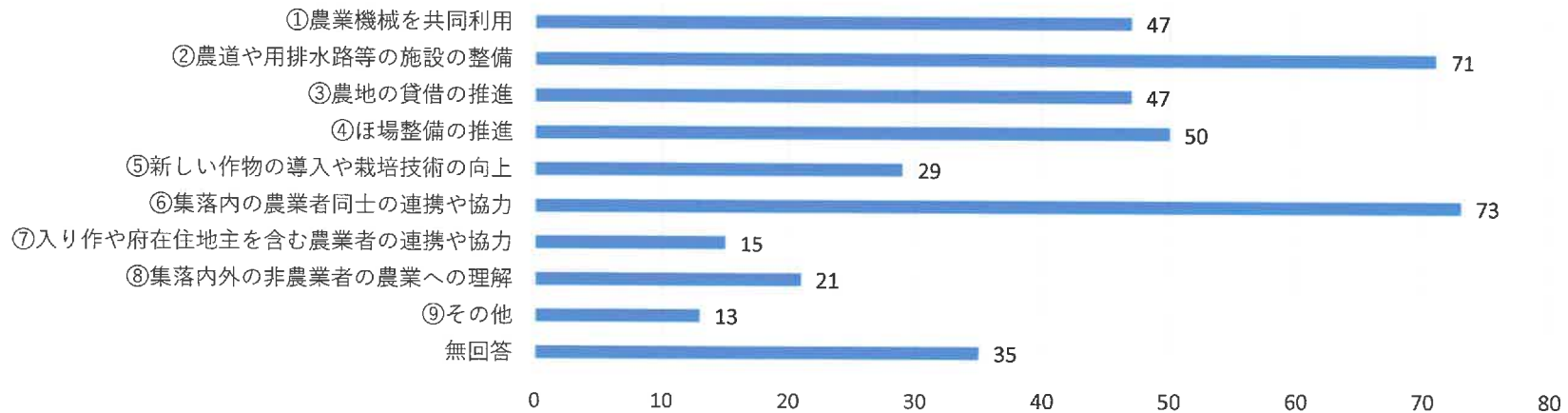
(4) 農地の貸出希望



(3) 今後の経営規模

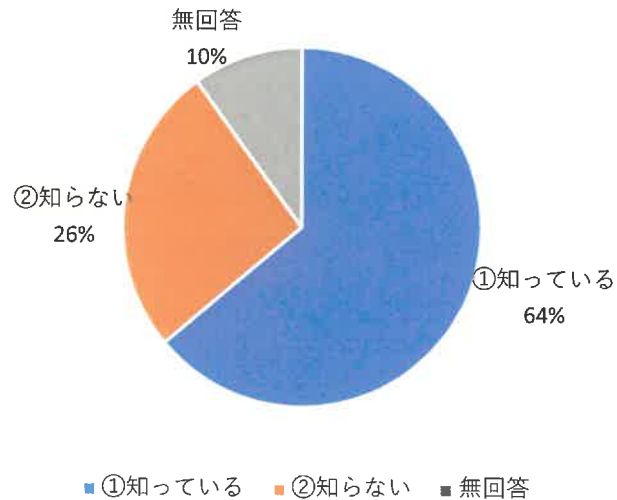


(4) 農業維持・発展の方策

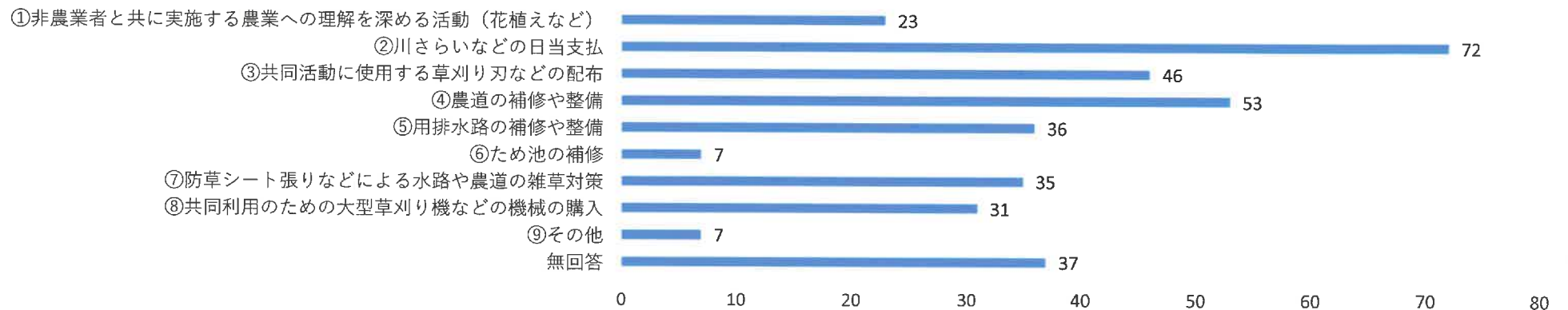


2. 農作業しやすい環境づくり（多面的機能支払交付金事業）について

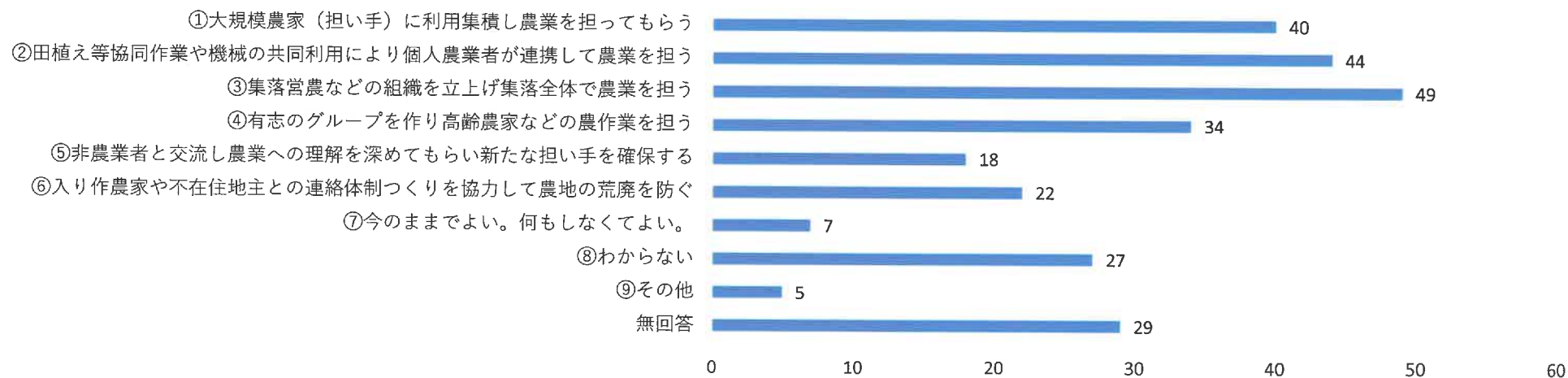
（1）多面的機能支払交付金事業の周知



（2）多面的機能支払交付金を活用した取組希望（3つ）



(3) 持続可能な地域農業のために、集落として進む方向



(4) 自由意見

- ・川さらいや草刈り（水路）公の場所が負担が大きい。もっと助け合えたらありがたい。
- ・農道の補修が町道や白地が対象外なので今後考えてほしい。
- ・舟地区の農業者の将来的な方向性は農業の拡大方向では多く望めないと思います。
- ・高齢化や後継者不在などこれからますます耕作不能地が加速度的に増えるかもしれない
- ・2,3年後には病気やそれ以外の要件でこのアンケートの考え方が変わっているかもしれない。
- ・多面的事業の継続要請、アンケート結果反映、行政への働きかけ
- ・農業は大切だと思うが、後継者問題など将来のことを考えないといけないので今より簡単に売りたいです。農地法などしがらみが多く単純でない。持ち主が売りたいなら自由にしてほしい。
- ・後継予定者が繁忙期にも手伝ってくれない状況。後継者としての育成は難しい。現状を維持して、後継予定者の定年後に期待しそれまで頑張れるか不安
- ・自分の田の周辺（農道）を年5,6回草刈りしているが（草刈刃）年齢ともなってしんどくなっているので芝刈り用機械を購入してほしい
- ・農用地と限定した舗装でなく調整区域の農道のコンクリート舗装化を

- ・ 今回のアンケートを直接関係ないが、祝園地域の用水と排水路を区別し、稲作だけでなく野菜作りできる環境整備をしてほしい。
- ・ 中区の農道は他区農道と比べて大変悪い
- ・ できれば地区の田を荒らしたくない。しかし私に耕作しなさいとなっても全てしんどいです。とても良い条件があればしたいと少しは思う
- ・ 耕作放棄にならないように地域の方々に耕作して頂き大変感謝している。高齢化が進む中でこれから農地をどの様に維持していけばいいのか。
- ・ 高齢化対策・不採算対策をすでに実戦している。組織・団体と交流を図り具体的な情報を収集する時期に来ていると思われる。
- ・ 小規模農家でも黒字の出せる運営を進めなくてはならない。連携して経費を抑える。
- ・ 自身の高齢化と後継者がいないためきたら他人に手離したい。
- ・ 川佐・寺東一帯のほ場整備が必要
- ・ 改良区から何ら恩恵を受けていない（過去・未来）田畑は改良区メンバーからはずしてほしい。水路もないし水も使っていない。
- ・ 雑草も燃やせない状況の中で農業はできない
- ・ まずは実行すること
- ・ 農道の両側の草刈をしなない人がいる、指導してほしい